

No. 04

兵庫県神戸市

六甲山から降りてくる
イノシシの人身被害を防げ！



神戸市灘区役所
総務部まちづくり課
+
兵庫県猟友会
摩耶支部



区民をイノシシから守る防波堤の役割
を果たす、区役所と猟友会の連携。

農産物被害ではなく人身被害。六甲山
から神戸の街へ降りてくるイノシシ。

一見、イノシシとは何の関わりもないように思える神戸市では、随分前からイノシシの人身被害に悩まされている。六甲山は今では自然豊かな山で、食べ物がないわけではない。イノシシが降りてくる最大の原因は、餌付けやゴミの不始末。一度覚えてしまった人の食べ物の美味しさを忘れられず、また餌をもらえらと思つて山を降りてくるという。



六甲山から見下ろす神戸の街。イノシシたちは餌場と信じ、暗くなると山を降り、街中に出没する。

区民の安全を守るには、イノシシが街に
入らないよう未然に防ぐことが大切。

猟友会摩耶支部の寺口支部長は、震災前までずっと灘区民だったこともあり、ボランティアで神戸市灘区内の獣害対策に協力されている。常に新しい技術を取り入れていく大変な努力家だ。従来型のやり方にとらわれず、IT を駆使して対策を行えるのはいいことだ」と寺口支部長は言う。六甲山は、国立公園に指定されているため柵を立てるわけにはいかず、捕獲で数を減らしながら、街へ入らないよう未然に防ぐ。イノシシによる人身被害は、平成 27 年度は灘区だけで 4 件発生し、中央区では骨折した人もいるとの話だ。

餌付け禁止を条例で強化。年 100 頭
前後捕獲しても、減らないイノシシ。

捕獲で数を減らしつつ、区民へは餌付け禁止やゴミ出しルールの徹底を呼びかけていき、意識を変えていく。捕獲だけに頼っていても解決しないのが神戸の獣害対策の特徴と言える。イノシシ目撃情報のあった近隣の小学校で安全セミナーを開催したり、鳥獣相談ダイヤルを設置するなど、区役所の役割も大きい。何しろ神戸市内に出没するイノシシは、レジ袋を持っている人を襲って食べ物を奪い、交差点で信号を渡っていたという目撃情報もあるほど非常に賢いのだ。



広報紙でも区民へ対策を呼びかけている。



雪の日でもセンサーの設定や動作確認を行う。

そのために、毎日かさかさパトロールを行っているという寺口支部長。区民の方から「パトロールご苦労さま」と声をかけられたりすることが、活動の励みになっているという。

現在は箱わな式のアニマルセンサー 2 を 3 台導入し、監視カメラも設置。どんな罠がいいか常に考えているという寺口支部長。今も改良を続け、どんどん新しいものを試し、安全に効率よく捕獲を行える方法を追求し続けている。